

第12回木のグランドフェアの紹介

キーワード：普及、イベント

今年の夏も、林産試験場と（社）北海道林産技術普及協会では木の良さを感じてもらい林産試験場に親んでもらう「木のグランドフェア」を開催しました。7月26日（土）から8月17日（日）までの23日間にわたり開催し、期間中の来場者は3,600人余りに達しました。

おかげさまでこの行事も12回目を迎え、夏の恒例行事として定着した感があります。定着することで、マンネリ化してしまうという意見もある中で、どのようなイベントにすれば、「木に親しむ」、「試験場に親しむ」そして木材の利用拡大につながるのか検討しました。

今回はメインとなるオープニングセレモニーの期間をこれまでの2日間から1日に集中し、内容を増やすなどいくつかの変更を加えました。

以下、各行事の紹介をします。

①木になるフェスティバル

木になるフェスティバルは木のグランドフェアのオープニングセレモニーであると同時にメインとなるイベントです。今年は、北海道の代表的な人工林樹種であるトドマツ、カラマツに注目して開催しました。

開会式には趣向をこらして、森林愛護騎馬隊に登場してもらいました。森林愛護騎馬隊とは、上川南部森づくりセンターが乗馬クラブのクラーク牧場に、騎馬による森林巡回で山火事防止の啓発などをお願いして



森林愛護騎馬隊

いるものです。当日は、3頭の馬が朝早くから来場者を出迎えるとともに、開会式会場にさっそうと現れて、開会式出席者の目をうばいました。クラーク牧場では、メンバーを互いに愛称で呼び合います。隊長のクラーク氏が女性隊員の一人を「キャサリンです」と紹介すると会場が笑いに包まれました。

開会式のあと、工作体験が始まりました。昨年同様に、トドマツのバードテーブルづくり、ベンチづくり、上川南部森づくりセンターの協力によるウッドコースターづくりを行いました。

また、今年からもう1工作増やして木のブロックにマグネットを貼りつける木のマグネットづくりも行いました。マグネットの木がそのまま標本のようになり、トドマツ、カラマツの特徴をとらえることができます。どちらも人気はありましたが、白木のトドマツが赤味のカラマツよりやや優勢であったようです。

開会と同時に木っ端市も開催しました。例年開催していることから、目当てにしている人が多く、工作コーナーはさておき、木っ端市に突進する姿が見られました。来場者の期待に応えられるような掘り出し物が準備できたのか不安でしたがよく売れていたようです。

また、午前と午後には3回にわたり試験場内を紹介するおもしろ科学講座として「たんけん隊ツアー」を開催しました。これは、試験場職員が場内を案内して最新の研究成果のいくつかを紹介するものです。希望者を募り、ガーデニング用品、発熱合板、木製ハガキ印刷、木質ペレット燃料の製造、コンピューターで動く木工ろくろ、きのこ栽培工程などを見学してもらい、ツアー途中には木の小物などのおみやげをプレゼントしました。今後は参加者が体験できるメニューをふやしていきたいと考えます。

午後にはオークションの開催です。このオークションに参加するため、午後1回目のたんけん隊ツアーの参加を見送る方もいたようです。全部で10品目がオークションにかけられました。オークションが始まると、恥

第12回木のグランドフェアの紹介



たんけん隊ツアー

ずかしさからか最初の第一声がなかなか出ないので気をもみました。しかし、いったん声があがると、みるみる値段が上がっていくので一気にもりあがります。

試験場や木材に関するクイズに答えてもらうクイズラリーも行いました。会場の数か所に設置したパネルを見ることで答えられる簡単な問題6問です。意識していなかったのですが、1問ひっかけ問題になっており、誤答が続出してしまいました。後日、正解者から10名を抽選で選び、開会式に出席いただいたクラーク牧場の乗馬券をプレゼントしました。

②北海道こども木工作品コンクール、アート彫刻板作品コンクール

グランドフェアの二つ目のイベントとして、小中学生に木工に親しんでもらうという趣旨から、全道の小中学生を対象にした木工作品コンクールを開催しています。コンクールには、林産試験場の開発製品で、合板の接着部分を赤くすることにより彫刻刀で彫りこむと模様などができるアート彫刻板の普及の一環として、レリーフ部門を設けています。

そのほか、これまで旭川市の百寿大学を対象としていたアート彫刻板作品コンクールも、上川支庁管内の生涯学習講座まで対象を広げて開催しました。残念ながら、旭川市以外からの応募は東神楽町からの2作品のみでしたが、同町での講座で取り上げていただいたことから木とふれあう体験の場が広がっていくものと期待しています。

応募状況は、北海道こども木工作品コンクールは、のべ25校220点、アート彫刻板作品コンクールは、7講座79点でした。

木工作品は、木の素材を使いながら、木の曲がりやこぶなどを上手に利用した作品が評価されました。木材を細かに加工した作品もあり、手のこんだ工作にう



木工作品個人の部（小学校）
金賞・知事賞「弁けい号」
阿寒町立布伏内小学校3年 八幡史哉



木工作品団体の部（小学校）
金賞・知事賞「やさしいオニもいるんだよ！」
置戸町立勝山小学校3、4年生



木工作品個人の部（中学生）
金賞「携帯型譜面台（組立・収納可）」
札幌市立北野中学校1年 川村一真

ならされた人も多いようです。

アート彫刻板は、彫刻板のもつ特徴を引き出す彫り方が難しいようで、特に初参加の方には苦勞がうかがえます。



レリーフ作品の部（中学校）
金賞・知事賞「緑にかこまれひっそりとたたずむわが城」
奥尻町立青苗中学校2年 成田彩乃



木工作品団体の部（中学生）
金賞「働く番犬たち」
芽室町立芽室中学校2, 3年生



アート彫刻板作品コンクール
金賞「梟（樹に止まろうとする所）」
神楽公民館神楽百寿大学 石田和子

これらのコンクールの表彰式は8月1日（金）に林産試験場にて開催し、金賞受賞者にセンノキの木製賞状を贈りました。また、金賞受賞者のうち、小中学生の最優秀作品には水産林務部林務局長から知事賞が授与されました。

③「木材利用と地球環境を考える」シンポジウム
木のグランドフェアの三つ目の大きなイベントとして、林産試験場公開講座「木材利用と地球環境を考える」シンポジウムを8月6日（水）に旭川市民文化会館にて開催しました。このシンポジウムは（社）北海道林産技術普及協会創立50周年記念行事としても位置づけられました。

シンポジウムでは、まず、カナダの環境コンサルタントであり、世界的な環境保護団体グリーンピース創設者の一人でもあるパトリック・ムーア氏をお迎えし、基調講演をいただきました。

ムーア氏は、木材の利用は必ずしも環境に悪いことではなく、木材を利用しながら、きちんと森林の手入れをしていくことは、化石燃料を消費するより環境を守ることになるということを主張していました。



パネルディスカッション

基調講演に続いて、パネルディスカッションを行いました。パネラーとして引き続きパトリック・ムーア氏と、地域でそれぞれ活躍している次の方々に北海道における木材利用、地球環境に関連する意見を交わしていただきました（敬称略）。

コーディネーター：石井寛（北海道大学大学院農学研究科教授）、パネラー：パトリック・ムーア、寺島一男（大雪と石狩の自然を守る会代表）、早坂尚美（環境ネットワーク旭川（地球村）事務局）、長原實（（社）全国家具工業連合会会長）、高原郷（旭川地方森林整備事業協同組合理事長）、丸山武（北海道立林産試験場副場長）

当日は、300名を超える方々が来場し、ムーア氏の講演に聞き入るとともに、石井コーディネーターから旭川の地域性を反映したシンポジウムになったのではないかとまとめていただきました。

23日間に及ぶ第12回木のグランドフェアもこうして無事に終わることができました。今後も各課題をふまえながら、これらの事業に新たな工夫をこらしたいと思います。

（林産試験場 普及課）